

新潟市潟環境研究所シンポジウム

湿地と共生する都市の未来

—2017年度研究事業報告—

日時 2018年3月14日(水) 18:30~20:50(受付17:45~)

会場 新潟日報メディアシップ 2F 日報ホール (新潟市中央区万代3-1-1)
※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

申込 定員/先着200名 入場無料
新潟市役所コールセンター(025-243-4894)へお申込みください。
※申込開始2月12日(月・振休) 受付時間8:00~21:00 年中無休

■プログラム

第1部 基調講演「人と自然と建築」

《講師》建築家 内藤 廣氏 (パネルディスカッションにも参加)

第2部 プレゼンテーション

「潟・こころの風景—2050年の越後平野における人と自然—」

多様な自然が息づくゆたかな潟をとりもどし、越後平野を生きるひとびとのこころの風景に一潟環境研究所の依頼を受け、NPO法人GSデザイン会議が2050年に向けた潟の再生に関わる調査研究の成果を発表します。

《プレゼンター》

赤川絢珠/安藤理紗/北川まどか/坂本いづる/平田いずみ/裴宇翔—東京大学社会基盤学専攻 景観研究室

安達幸輝/外山実咲/橋本航征—法政大学都市環境デザイン工学専攻 景観研究室

小澤広直/吉澤広大/渡邊拓巳—早稲田大学建設工学専攻 景観・デザイン研究室



内藤 廣氏
建築家
東京大学名誉教授

第3部 パネルディスカッション「ラムサール条約都市・新潟の未来」



《コーディネーター》
大熊 孝
潟環境研究所 所長



《パネリスト》
中井 祐氏
東京大学 教授



《パネリスト》
福井 恒明氏
法政大学 教授



《パネリスト》
佐々木 葉氏
早稲田大学 教授

司会:樋口幸子 (フリーアナウンサー、潟環境研究所制作の記録映像「潟の記憶」ナレーター)

新潟市は、いまでも「里潟」として人と潟との関係性が引き継がれる16の潟群が残され、毎年ハクチョウやヒシクイなどの渡り鳥が飛来するといった時空間を、81万人市民とともに共有しています。当研究所では本市のこの状況を渡り鳥の生息地保全を中心に始まった「ラムサール条約」という言葉を冠し「ラムサール条約都市・新潟」と表現しています。

本シンポジウムでは、NPO法人GSデザイン会議の協力を受け、2017(平成29)年度事業として取り組んだ研究成果をもとに、湿地と共生する都市の未来について考えます。

シンポジウム出演者プロフィール

内藤 廣 氏：建築家・東京大学名誉教授

1950年神奈川県横浜に生まれる。早稲田大学理工学部建築学科、同大学院修士課程修了後、フェルナンド・イゲラス建築設計事務所(スペイン・マドリッド)、菊竹清訓建築設計事務所勤務をへて、1981年内藤廣建築設計事務所を設立。2001年東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学助教授、2002～11年同学研究科社会基盤学教授、2007～09年グッドデザイン賞 審査委員長、2010～11年東京大学副学長、2011～東京大学名誉教授。GSデザイン会議代表。



中井 祐 氏：東京大学大学院 工学系研究科社会基盤学専攻 教授



1968年愛知県豊橋生まれ、埼玉県所沢育ち。アップル総合計画事務所、東京工業大学などを経て2010年より現職。専門は土木施設と公共空間のデザイン、景観論。著書に『近代日本の橋梁デザイン思想』『風景の思想』(共編著)など。主なプロジェクトに、河戸堰(高知県)、岸公園(島根県)、砂走公園(石川県)、ベレン公園図書館(コロンビア)、中野四季の森公園(東京都)、竹田市城下町地区再生、大槌町復興計画(岩手県)など。GSデザイン会議幹事長。

福井 恒明 氏：法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教授



1970年東京都生まれ。東京大学工学部土木工学科卒、同大学院修士課程修了。清水建設、東京大学、国土交通省国土技術政策総合研究所などをへて2012年より現職。産学官で一貫して土木景観を専門としてきた。編著書に「景観デザイン規範事例集」「コンパクト建築設計資料集[都市再生]」「水都学V」など。千葉県流山市・東京都杉並区・千代田区などの景観行政、佐渡・四万十・柴又の文化的景観や阿賀野川(咲花温泉)の川づくりに関わる。GSデザイン会議会員。

佐々木 葉 氏：早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科 教授



1961年鎌倉市生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒、東京工業大学大学院修了。東京大学・名古屋大学・日本福祉大学などをへて2003年より現職。景観論・インフラのデザイン論。編著書に「ゼロから学ぶ土木の基本・景観とデザイン」「ようこそドボク学科へ」「風景とローカルガバナンス」など。岐阜県恵那市、長野県宮田村、三重県の景観アドバイザー。水に関わる広義のインフラに注目した地域まちづくりに関心を持っている。GSデザイン会議会員。

大熊 孝 氏：新潟市潟環境研究所 所長・新潟大学名誉教授



1942年台北生まれ、千葉育ち、新潟市在住。東京大学工学部土木工学科卒、工学博士、新潟大学名誉教授、NPO法人新潟水辺の会顧問。2014年4月から、新潟市潟環境研究所 所長。専門は河川工学、土木史。自然と人の関係がどうあればいいかを、川を通して研究しており、川の自然環境を守るとともに、治水・利水のあり方を住民の立場を尊重しながら考察している。著書に、『利根川治水の変遷と水害』、『洪水と治水の河川史』、『川がつくった川・人がつくった川』、『技術にも自治がある』などがある。

研究協力団体プロフィール

◆NPO法人GSデザイン会議(東京都文京区本郷6-16-3 幸伸ビル2F)

2005年5月、全国各地の総合的なまちづくりや空間デザインへの要請に応えるために、分野を超えた専門家間の協働体制を確立するための基盤となる任意団体「GS(グラウンドスケープ)デザイン会議」として発足。

「GSデザイン会議」は、実践の蓄積を土台にして、来るべき時代の総合的な空間デザインをより広範に実現するためのプロ集団、強力で密な分野協働型の専門家ネットワークを目指している。

司会者プロフィール

◆樋口 幸子 氏：フリーアナウンサー

1958年燕市分水生まれ。東洋大学法学部法律学科卒業。BBT(富山)NSTをへて英国へ短期留学。のちフリーアナウンサー。2006年音楽と朗読で郷土の文化を伝える越後語り座に語りとして参加。主な演目は良寛さま。



新潟市潟環境研究所プロフィール

本市には、地域の暮らしに根差した「里潟(さとかた)」ともいふべき個性豊かな潟が多く残っています。当研究所は、これらの潟と人とのより良い関係を探求し、潟の魅力や価値を再発見・再構築するため、2014(平成26)年4月に発足しました。潟に関わる多くの皆さまと連携しながら、自然環境や歴史、暮らし文化などについて、調査・研究を進めています。

